

nakatombetsu town guide

中頓別町勢要覧

四季を育む
河川と森と
社会と人と





ハイジの丘から望む風景

目次 CONTENTS

発行にあたって	3
中頓別の四季	4
中頓別で暮らすこと	6
移住者の声	7
・中野さん 地域おこし協力隊	
・渡辺さん 黄金湯経営	
・村田さん 酪農新規就農	
中頓別が進める三方針	
・子ども子育て	10
・福祉のまちづくり	12
・中頓別の産業	14
観光政策	16
イベント・特産品	18
中頓別町内図	19

発行にあたって

中頓別町は、北海道の北部、北緯45度線上に位置し、深い森と豊かな清流など雄大な自然に恵まれた町です。

明治末期に一片の砂金が発見されたことからゴールドラッシュが沸き起こり、「東洋のクロンダイク」と呼ばれるほど賑わいを見せ、その後、先人たちは厳しい自然条件にも屈さず、この地に根を張り、自給自足と共助により開拓が始まりました。

それから1世紀が過ぎ、現在は酪農と林業を基幹産業とした生活が営まれておりましたが、そういった生活も人口減少により持続困難になるかもしれないという大きな危機に直面しております。

そのような中で、中頓別町は「ふるさと再生、中頓別」を基本理念に掲げる第7期総合計画にもとづき、農林業の振興を核とした産業の再生、起業化・雇用創出に取り組むとともに、地域の支え合いで安全・安心な地域を作り上げ、子供が夢を、子育て世代が希望を持てる町を目指してきました。

私たちは、これからも全力で人口減少社会に立ち向かい、未来をあきらめず、元気で豊かなふるさとづくりを進めていきます。

中頓別町長 小林 生吉



生命の胎動

中頓別の春は遅い。平野部から根雪が消えるのは4月の中旬である。乳牛たちが大地の恵みである青草を待ちかねる中、酪農家がトラクターで肥料をまき始める。周囲の山々からの雪解け水が頓別川とペーチャン川を潤す頃、チシマザクラが



春

つぼみを膨らませ、うぐいすやカッコウの鳴き声がこだまする。鍾乳洞まつりが開催される6月はじめには、シバザクラが薄紅色の絨毯を敷き詰めたように咲き乱れ、悠々とした春の訪れを謳歌する。



チシマザクラ

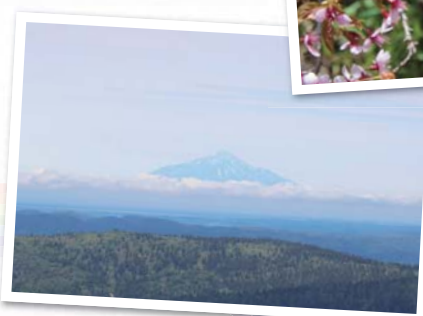
夏

みなぎる活力

6月中旬、敏音知岳では山開きが行われ、町内外から多くの人が集まり、短い夏の訪れを感じさせる。

7月になると、冬の寒さを忘れるほど暖かな日差しに恵まれ、各地でお祭りの音が響き渡る。

8月、夏の大イベント「北緯45度夏まつり」が開催される。その中の催しである「全日本水風船キャッチ選手権大会」は町外からも多くの方が参加し、夏の活気のシンボルとなる。日が暮れても賑わいは衰えず、打ち上がる花火が夜空を染め上げ、夏の思い出を映し出す。



敏音知岳から望む利尻富士

秋 中頓別の四季折々



黄金色の大地

8月の活気が収まる頃、牧草地では二番草の刈り取りが始まる。刈り取られた牧草はラップでロール巻きにされ、牧草地を彩るその光景は秋の風物詩といえる。

山岳部を含め、森林が豊富であることから木々の彩りは鮮やか。赤や黄色に色づいた紅葉に秋の深まりを感じる。



野生動物の宝庫



しばれまつりのキャンドル

山も草木も雪化粧

やがて敏音知岳の峰に初雪が降り、早い冬の訪れを告げる。例年、平野部での積雪は11月中旬であり、12月中旬には根雪が10cmを越える。やがて野山は深い雪に閉ざされ、頓別川も凍結する。

厳冬の1月末、冬の大イベント「北緯45度しばれまつり」が開催される。ときには氷点下30℃近い冬の夜、雪像が立ち並び、キャンドルの灯る中、かんじき二人三脚や餅まきなどを楽しむ。

野山を埋める深い雪は、大地がしばれあがらないよう柔らかく包み、春の雪解け水は森を養う資源となる。これがわがまちの自然の姿である。



冬

中頓別で暮らすこと



中頓別町が考える
理想の「まち」とは

中頓別町は…

不便な
ところ

お店が少ない

駅がない

寒くて雪が多い

色々あるけれど
それでも…

今住んでいる人が
住んでいてよかった
ずっと住んでいたい
そう思える「まち」へ



住民が住んでいたい環境は
移住者にとっても良い環境

中頓別町は、今住んで
いる住民にとって住みや
すいことが移住者の目にも
魅力的に映ると考えま
す。町が行う取り組みの
一つひとつが移住政策で
あり、住みよい地域づく
りを推進しております。

中頓別の魅力を
移住者が発信

住みよい地域づくりを
進める一方で、町外への
アピールも重要となりま
す。そのため、移住フェ
アなどでは、中頓別へ移
住した方が、良いところ
だけではなく不便なこと
も含めて説明します。
すぐに移住するという
ことではなく、おためし
暮らしなどで実際に生活
を体験してもらった上で
移住していただくことが
重要と考えます。



移住フェアの様子

魅力を発信

取り組みリスト

子育て・教育
医療の充実
交通不便の解消
健康づくり
雇用対策
住宅環境の整備
商工農林業振興
高齢・障がいサポート
などなど

移住者の声

障がい者福祉が社会を強くする――

黄金湯 渡辺 由起子さん

平成22年から中頓別に移り
住み、以前は町営銭湯であつ
た黄金湯を再開。現在は黄金
湯だけでなく、併設の「こみ
れすかふえトントン」で食事
も提供し、地域の方々が集ま
る場所として親しまれている。

どうして黄金湯を始めたので
しょうか

障がいを持っているとい
うような就労に不利な条件の方
をパートとして雇って、お風
呂の準備などを任せています。
このような方たちの社会への
平等な参加を目指して黄金湯
を始めました。

もし障害を持った方が家庭
を持ちたいとか街で暮らした
いというときに黄金湯が就労
に果たす役割はグッと広がる
かなと。現状のように施設か
ら通う場合、施設が生活の中

心で、自立の可能性は広が
らないと感じます。

「福祉のまち」というキャッ
チコピーはあるけど、障害を
持った方々がまちの中で普通
に生活して働いて、それをみ
んなで支えることが本当の福
祉のまちなんじやないかなと
思います。

移住してきたきっかけは？

中頓別町へは障がい者福祉
の講演会を聞きに来たのが最
初です。吹雪の中、町民セン
ターに多くの人が集まってい
て、やけに熱心だなという印
象でした。そこで興味を持っ
て注目していたところ、黄金
湯が売りに出されているのを
見て、障がい者福祉を実践す
るために「銭湯がいいかも」
とピンときたのがきっかけで
すね。そのときに、内閣府の
社会的企業コンペというもの
があつて、今まで頭の中で考



えていた事を文字に起こして
応募してみたところ審査に通
り、中頓別へ引っ越ししました。
銭湯をはじめの不安は

そもそも完璧な風呂屋であ
りたいと思っていないので不
安はありませんでした。すで
にあるコミュニティとつなが
りながら自分も相手も居心地
がいい場所ができたらしいな
と。その場所が黄金湯だった
わけです。

銭湯をやリたかったわけ
ではないですが、お風呂屋は
ごくよかつたと思つていま
す。温まって身体もキレイに
なるというはつきりした効果、
もやもやしないですよ。

**居心地の良い居場所をつくる
という思いが原動力ですか？**

私自身、特に行動力がある
わけではないです。ただ、自
分がやりたいことを喋ると協
力してくれる人がたくさんで

てきて、その人たちの裏切る
ことができないという気持ち
が大きい。ここまできてやめ
るのは自分だけの問題ではな
いので、やめる前に別な人を
育てて引継げたらこの事業は
成功かなと。

移住者の役割とは

中頓別は居心地がよくてい
い人ばかり。それでも、部屋

の中にいるような居心地がい
い地域なだけに、風が吹かず
息苦しくなることもあります。
ときどき窓を開けて空気を動
かすような役割は、よそから
来る人にしかできないのでは
ないでしょうか。安定した空
気を動かすような「風」を起
こす移住者が増えるといいな
と思います。



すべての挑戦が夢への道

中頓別町地域おこし協力隊

中野 巧都さん

平成27年より、地域おこし協力隊として中頓別町へ移住。猟銃の免許取得など、様々なことにチャレンジし、中頓別の魅力を体験・発信している。

中頓別に来たきっかけ

オリンピック選手に憧れて、小学生から柔道を始めて、中学・高校と柔道のために部活も勉強も全力で頑張ってきました。大学を選ぶときも、この大学で柔道をやりたい、この大学以外では柔道をしたくない、柔道をやらないのならば大学にいかないと決めて受験したのですが、1年浪人してもだめで、その1年で身体の衰えを感じ、これ以上浪人すると選手としてだめになると思い、進学を断念しました。そのときは、かなり落ち込みましたが、何かやらなきゃと思って、仕事を探そうとしたときに地域おこし協力隊を知り、採用時期の早かった中

頓別に応募しました。せっかくなので地元から遠くて知らない場所に行こうという思いもあり、ある意味、逃げてきた感じですかね。

移住前と比べてライフワークは変わりましたか？

中頓別では、夏にはヤマメが釣れたり、春には山菜が採れたりと季節によって楽しみ方が違うなと思います。都会ではこの季節感は味わいにくいですね。旬を楽しむことができるのってすごく良いと思います。

狩猟の免許を取得したと聞きましたか？

ハンターの高齢化が進む中、やってみたいかと声をかけられました。最初は乗り気ではなかったのですが、就職してやっとの思いで買った車が鹿に衝突して半年で廃車になり、今までは農林業被害くらいかなと思っていた鹿が、本当に「危ない」ということを実感しました。これをきっかけに免許を取得するだけではなく、

自然と共に生きていく

新規就農 村田 克明さん

平成22年に中頓別へ移り住み、翌23年には新規就農第1号として酪農経営を開始。家族5人、自然に囲まれた環境でのびのび暮らしている。

今の中頓別での暮らしぶりは

酪農の仕事は天気によって左右される仕事なので、必ず天気予報や天気図を見ています。

季節で考えると夏場の一番は、冬の間のための収穫作業。草の収穫は作物と同じで、いいものが採れるとうれしいし、野菜などの収穫と似ていると思います。6月の中旬から1番草、お盆明けから2番草を刈ります。冬の作業は、掃除やエサやり、搾乳くらいですかね。搾乳は365日朝晩ありますね。

やはり毎日仕事があるとはばられてる感覚はありますか

10年くらいサラリーマンをやっていました、しばらくはいる感覚から言えば、サラリーマン時代の方がはるかに

大きいですね。休みでも電話がかかっていたり、土日は月曜日の仕事を考えたりしますよね。酪農をやっているのは、束縛も緊張も無く、上司もないのでプレッシャーやストレスもない。休みなく働いて厳しいと思うかもしれませんが、精神負担は10分の1くらいだと思います。サラリーマンのときより楽しいですよ。家族で一緒に時間も増えてコミュニケーションもとれます。

移住のきっかけ

自分のやりたい酪農が小規模なもので、比較的安く、沢山の頭数を飼う必要もないというところで道北を探しました。海沿いよりも山間がいいと考えていて、山や自然に囲まれている中頓別がすごく魅力的で、このまちだったら一生暮らしてみたいなと思い、中頓別に決めました。

これからの展望や夢は？

快適な暮らしの追及ですね。それは牛もそうですし、自分たちもそうです。牛にとって

狩猟文化自体の普及も考えるようになりました。ハンターという言葉に「難しそう」というイメージだけが先行して、ハンターになるためにはどうすればよいのかということを知りたい人はいない。それを自分で体験してみて、ハンターというものをアピールしていこうと思いました。

ハンターに対してのイメージを変えるためにやっていること

殺すのはかわいそうという人もいますが、ハンターは重要な存在です。熊が出たとき、普段鹿を撃っている人たちが必要になりますよね。それは消防や警察と同じ役割だと思います。この狩猟文化が途絶えないよう若い世代に継承しなければなりません。そのきっかけに自分がなろうと。高齢な方では若い人への情報発信ができないので、アウトドアの延長のようなイメージで発信していきたい。それを見始めようと思う人がいればいいなと。

今後の目標は何でしょうか

小さい頃から夢の二本柱があって、ひとつはオリンピック選手になること、もうひとつは会社を動かす人に憧れていたの、社長になることでした。

具体的な内容は何も決まっていませんが、狩猟免許のよう色々とチャレンジし、今は自分の価値を高めたいと思います。その中で「これだ！」と思ったもので社長になりました！



一番いい暮らしを追及して牛が楽になれば、病気や死ぬ牛も減って、働いている自分たちも楽になるので。もっと牛に放牧地の草を食べてもらって、毎日腹いっぱいになって帰ってきてもらいたい。そういう意味では、草場が足りないので工夫してやっていきたいですね。

子どもたちにどのようなオヤジの姿を見せたいですか

楽しそうに仕事している様子を見てもらいたい。酪農は色々な仕事ができるので、その中で何か影響を受けてもらえたらいいですね。子どもたち

ちにペンキ塗りを手伝ってもらったりして、そういうのも何かのきっかけになればいいなと思います。うちの長男なんかは大工やりたいと言っている、そういう影響も少しはあるのかなと。

酪農家を目指す方に一言

中頓別で就農してくれたらうれしいですね。私みたいに、素人でサラリーマンだった人間でもできるので、そこまでハードルは高くないのかなと思います。一度はサラリーマンをやってもいいと思いますし、それからでも遅くないので、是非。



すくすく
元気！

**妊娠・出産・育児
切れ目のない支援**

不妊治療費の助成など、妊娠を望む夫婦の経済的な負担軽減を図り、安心して通院できるよう支援し、新たな命の育みを応援します。

**確かな学力
豊かな心
健やかな体**を育成

小中学校は、コミュニティスクールに取り組んでおり、学校と地域が一体となって、子どもたちを育む「地域とともにある学校」を目指しています。また、年に5〜7回、土曜日授業を実施しています。特別活動や総合的な学習の時間、行事などを土曜日に設定して、平日の教科の学習時間を確保しています。

こども園や小中学校では、フッ化物洗口を実施し、虫歯ゼロを目指しています。

放課後子どもプラン

平成28年4月から、放課後児童クラブと放課後子ども教室を統合し、新たに「放課後子どもプラン」として活動を開始しました。

これは、放課後や長期休業中といった時間の活用を支援するもので、様々な体験交流を通して異学年の子どもや地域の大人との交流を深め、子どもたちの社会性・自主性・創造性などの豊かな人間性を養うことを目的としています。



子ども・子育て

健やかでこころ豊かな子どもを育てる環境づくり

現在、中頓別には、小学校、中学校、認定こども園がひとつずつあり、それぞれが教育目標に向かい特色ある教育を推進しております。

質の高い、保育・学校教育の総合的な提供、保育の量的拡大、教育・保育の質的改善を図るため、保健福祉課、教育委員会、認定こども園と連携を強化し、地域の子育て支援の充実を目指します。



パパママ必見！

子ども・子育て支援



ぐんぐん

健康

介護保険・国民健康保険

地域・高齢・障がい者福祉
地域福祉では、社会福祉協議会との連携を強化し、成年後見制度の活用や見守り体制の充実とともにサロン活動の推進など「町民が集える場の提供」を進めています。また、除雪に悩む高齢者・障がい者世帯に対し、状況に応じた除雪サービスを提供。誰もが安心して暮らせる仕組みを構築し、町ぐるみで地域福祉を推進しています。福祉サービスの向上のため、福祉施設での人材確保が必要であり、従事者の養成と資格取得を目的とした新たな助成制度を創設し、施設利用者が安心して生活できる仕組みを構築するとともに、生活環境の整備を進めています。

保健予防
保険予防では、第2次「健康なかとんべつ21」を推進し、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目指しています。また、子宮がん、乳がんを中心に、がん検診の普及啓発を進めています。



中頓別町 国民健康保険病院 リハビリテーション室増築

平成27年度、国保病院ではリハビリテーション室を増設。これに合わせて理学療法士を確保、安心してリハビリに取り組むことができるようになりました。院内でのリハビリだけでなく、訪問リハビリなどもあわせて行います。

福祉のまちづくり



いつまでも
元気！

アクティブ
シニア



現在の中頓別町は、少子高齢化が著しく進行しております。そのような中、子どもからお年寄りまで、すべての町民がいつまでも安心して暮らすことができるよう、健康づくり、地域医療の確保、高齢者や障がい者等に対する福祉、その他の諸施策を総合的に推進しています。



のびのび

働く

森林は、環境保全や水資源の
かん養など多面的な機能を有し
ており、計画的な整備が必要と
なります。このため、町有林の
計画的な施業や民有林の無立木
地の解消、育林への支援を継続

林業振興

近年の中頓別町は、青年農業
者や農業後継者が増加傾向にあ
り、新規参入を目指す酪農研修
生を受け入れるなど、酪農経営
は新たな世代へと受け継がれつ
つあります。このような若い世
代の可能性を高め、既存農業者
の経営安定化・第三者継承を円
滑に進めるため、「中頓別町酪農
振興支援条例」による制度をス
タートし、酪農業の活性化に向
けて事業を展開しています。

酪農業振興

産業振興・地域経済の活性化と社会資本の整備

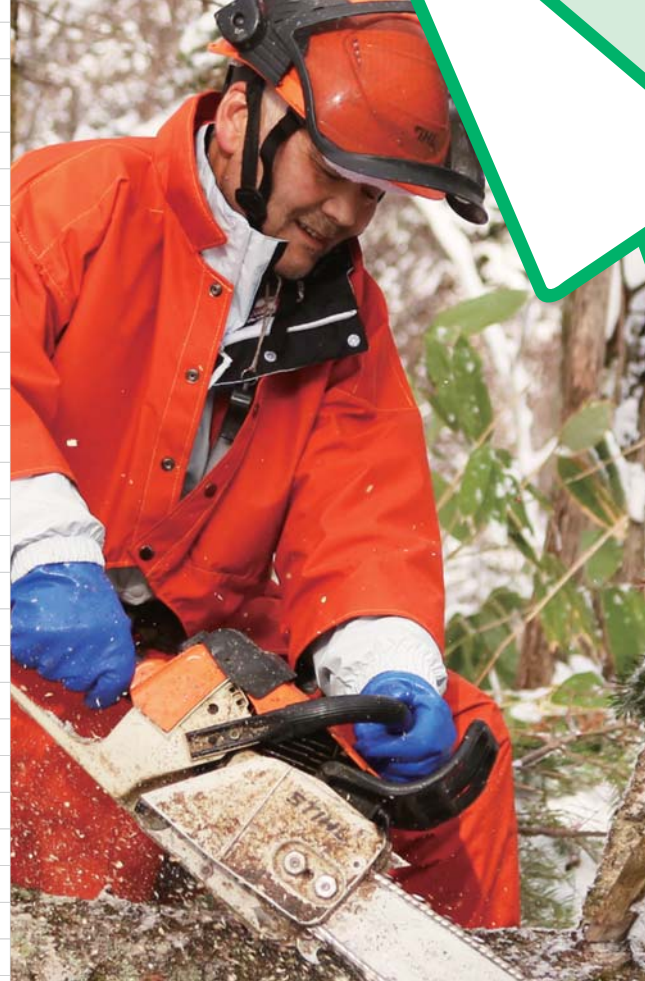
町商工会では、商工業振興策
としてマスタープランを策定し、
懸命な努力を行っています。町
としても「プレミアム商品券発
行」事業を支援し、地域が一体
となった経済振興に取り組みま
す。また、本年度より「中頓別
町商工業振興支援条例」による
制度をスタートし、新規事業な
どの実施に向けた施設整備の支
援や経営移譲を受けた場合の優
遇措置などにより、本町の商工
業の活性化を支援しています。

商工業の活性化

し、林道や作業道の計画的な整
備を実施しています。また、森
林作業員の就労通年化を支援す
るとともに、森林所有者の把握
に努め、施業の助言や情報を提
供し、森林の集約化・作業の効
率化を目指します。

現在、中頓別町では、人口減少などによる経済活動の衰退が懸念
されておりあります。そのため、産業振興・地域経済の活性化を目指し、
基幹産業である酪農・林業の基盤整備を行い、商工業の結びつけ
て、観光資源へと活かしていけるようそれぞれの分野において支援
策を推進しています。

地域経済再生



中頓別の
原動力

働く大人はカッコイイ



中頓別の牛乳を 手の届く場所へ なかとん牛乳 製造開始！

現在、当町で生産された牛乳のほとんどは町外の工場に出
荷されています。中頓別の牛乳を飲みたい、牛乳を使った特
産品を作ってほしいという要望に応じるため、地元の生乳を
使った牛乳の製造や乳製品の開発に向け「食彩工房もうもう」
に小型ミルクプラントを設置。地域内での利活用や特産品の
開発に向けた試験研究を進めてまいります。



知駒峠から望む
敏音知岳と広がる雲海

過酷で
気高く
美しい
中頓別の自然

頓別川でのカヌー体験

地球の鼓動が
地に道づくり
季節の息吹が
野に花咲かす

中頓別鍾乳洞自然ふれあい公園

北海道天然記念物の「中頓別鍾乳洞」をはじめ、季節ごとの動植物と触れ合える自然豊かな公園。中頓別の自然をゆったりと楽しむことができます。

中頓別鍾乳洞は、およそ1万年前、北の海に生息していた貝類が堆積し、石灰岩を形成したもので、これは学術的にも貴重であり、日本最北のカルスト地形となっております。

手つかずの「自然」が残るまち
遠くから 足を運ぶ 価値を生む

中頓別の観光振興 Attraction of nature

自然の魅力を大胆に

この町の観光資源は、なんと
言っても恵まれた自然の数々。
このまちで観光を進めるにあたり、
自然の魅力を最大限に発揮
することを基盤として取り組ん
でおります。

平成27年度から着手した観光
振興計画の策定について、観光
が地域経済の活力を取り戻す核
となれるよう、農商工との連携
し、観光受入体制の拡充を進め
ています。

観光施設について、ピンネシ
リ温泉といった観光関連施設の
運営を一元的に運営し、中頓別
の観光を包括して提供できるよ
う取り組んでいます。

砂金掘り体験



スノートレッキング



夏

冬



nakatombetsu town

MAP



寿スキー場



寿公園



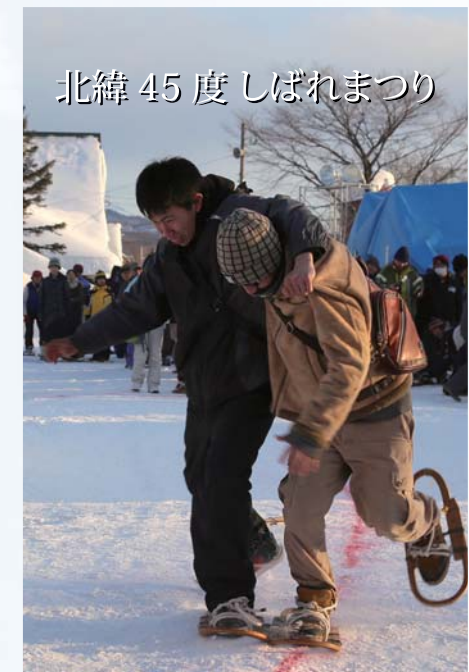
大畑山展望台



北緯 45 度 夏まつり



夜空を彩る
花火ファンタジア



北緯 45 度 しばれまつり

自然が彩る

中頓別のイベント事情



敏音知岳 山開き



ロマンの時を掘り起こす
砂金まつり



牛乳早飲み大会
北緯 45 度 酪農祭



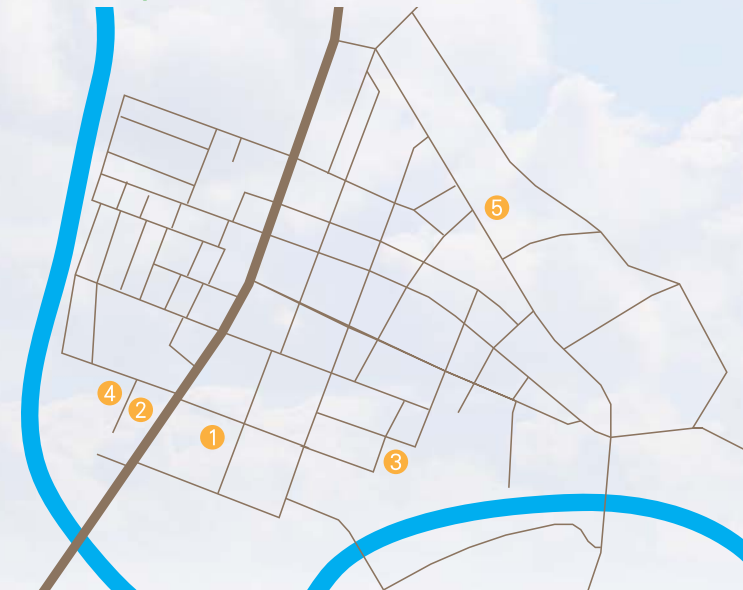
1. 中頓別町役場



2. 介護福祉センター



3. 中頓別町民センター



施設関連



4. 国保病院



5. 天北線メモリアルパーク



天北椎茸



砂金ラーメン



蜂蜜
彩北の滴



黄金色のときめき



利休箸



砂金ようかん

御土産

NAKATOMBETSU



町の木
アカエゾマツ



町の花
チシマザクラ

【企画・編集・発行】



中頓別町役場

総務課 住民グループ

北海道枝幸郡中頓別町字中頓別 172-6

TEL 01634-6-1111 / FAX 01634-6-1155

発行：平成 29 年 2 月

【印刷】 有限会社 天北印刷工業